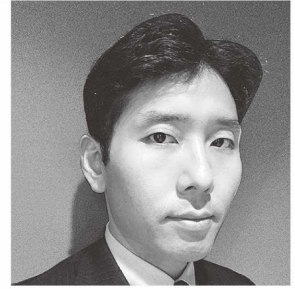


中小企業診断士の視点

第84回 「ウェルビーイング」は経営の源



中小企業診断士 太田 泰嗣
(一社)埼玉県中小企業診断協会

「ウェルビーイング経営」という言葉をご存じでしょうか？ そもそも「ウェルビーイング」には、「心と体、人間関係を含む社会的関係すべてが良好な状態であること」という意味があります。働き方改革や健康経営が叫ばれる昨今、自社の利益ばかりでなく、企業に関わるあらゆる人々や社会の「ウェルビーイング」を追求する「ウェルビーイング経営」が、注目を集めています。

「ウェルビーイング経営」に取り組むことは、将来的な企業の成長や発展を考える上で、多くの利点があります。例えば、ウェルビーイングな従業員は、ウェルビーイングではない従業員よりも生産性が30%高く、創造性も3倍高いことが、学術研究によって明らかにされています。経営者や従業員の心身を良好な状態に保つと、生産性が上がり、職場の雰囲気や組織風土も良くなります。また、職場の心理的安全性を確保すると、従業員の創造性が高まり、革新的なアイデアが生まれやすくなります。経営者や従業員が生き生きと働く企業は、顧客や取引先、地域社会から見ても魅力的な企業であり、業績にも好影響を与えます。従業員の欠勤率や離職率は減少し、人材の獲得においても有利になることが期待できます。

実際に「ウェルビーイング経営」に取り組むためには、何から手をつけてよいかわからないというご相談を経営者や人事担当の方からいただくことがあります。その際、「わが社、私にとってウェルビーイングとは何か」を、経営者と従業員が互いに納得するまで話し合うことをお勧めしています。人や組織によって「ウェルビーイング」の形は様々です。お互いの想いや考え方の違いを認識し、尊重しながら、「ウェルビーイング」でいるために“できる”、または“したい”行動を明確にしていく営みが重要になります。

具体的な行動の例として、「挨拶をする」、「職場をみんなで清掃する」、「サンクスカードを贈り合う」など、身近で簡単にできるものがあります。また、「はたらく人の幸せ／不幸せ診断」など無料のオンライン診断ツールを活用して、経営者や従業員の「ウェルビーイング（幸福）度」を測定してみるのも面白いかもしれません。

最後に、「ウェルビーイング経営」は、効果が実感できるまで、相当の時間を要します。うまくいかないことや何かを犠牲にしなければならないことに直面する場合もあるでしょう。そうした時、挫折しないためにも、「ウェルビーイング経営」を経営のど真ん中に据え、長期的な視点で取り組む覚悟が必要です。経営者が中心となり、「ウェルビーイング」でいることをあきらめず、コツコツと積み重ねていく。そうすれば、気がついた時には大きな成果があらわれているはずです。取り組む上で疑問や課題が生じたときには、中小企業診断士にぜひご相談ください。

【問い合わせ先】

(一社) 埼玉県中小企業診断協会

ホームページ： <https://sai-smeca.com/>

電話： 048-762-3350

Eメール： rmcsai@nifty.com